

- (2) 自治体問題研究所編「住民と自治」一九八四・一
二、六〇―六一ページ
- (3) 「昭和六一年度、入学志願者のための——国立長岡
技術科学大学案内」二七ページ。この他にも、私が
技科大で、インタビューを試みた茨城高専という
学生は「大学院卒業したら、一流企業からひっぱり
ダコですよ。」と言っていたし、日本精機でも「技科
大卒で、うちの会社に入るのは、長岡周辺の出身者
だけです。それさえ、ひっぱってくるのはたいへ
ん。」というように話していた。
- (4) 今井賢一「情報ネットワーク社会」岩波書店、一
九八四年、九二ページ
- (5) 朝日新聞 一九八六・一〇・一九
- (6) 朝日新聞 一九八七・一・二四、朝刊
- (7) 朝日新聞 一九八六・一一・三二
- (8) 朝日新聞 一九八六・一一・二二、この発言は、
いわき市総務部長、近野忠弘氏のものである。
- (9) 朝日新聞 一九八六・九・九
- (10) 伊ヶ崎暁生「今日の大学問題と国民教育」（「国
民教育三三号」所収）、五二ページ
- (11) 「世界」一九八四・二の竹内啓論文参照

(はば きよし)

表紙絵について

み・の・と・か・さ

私は今、北魚沼にすんでいる。家は農家である。

一月一日、たのまれた新潟の風土に関係する表紙絵をかこうと思いついた。だが、この日は朝から雪が降りやまない。でかけるのはめんどろだし……。

そこで、私の家は県内にあるのだから、私の所で古くから使われてきたものは新潟の風土に根ざしたものにちがいない、こう勝手に解釈して、玄関にかかっているみ・の・と・か・さをかくことにした。さっきまで、親父ががぶって雪かきをしていたものだ。

み・の・は今はほとんど見られなくなったが、雨や雪の日にこれをかぶって作業するのは、長時間でなければ今のカッパよりは都合がいいと親父は言う。内側が蒸れないからだ。み・の・は、荷を背負うのはワラで作ったが、雨や雪よけのものは自生する通称ヒロロという草で編んだ。これもヒロロで作ったものだ。山へ行くと、誰もとらなくなったヒロロが見事に生い茂っているのがみられる。

(大平壮一「中越高校」)